

以下の記事は、ノルウェー大使館 <http://www.norway.or.jp/Embassy/> のウェブサイト「ノルウェーの支援」より抜粋したものです。



## 宮城県石巻商業高校で太陽光発電設備寄贈式

最終更新日: 17/11/2011 // 11月9日、ノルウェーのリック・リン(Rikke Lind)貿易産業副大臣出席のもと、エルケム社(Elkem AS)による太陽光発電設備の寄贈式が行われました。

太陽光発電施設の寄贈は、東日本大震災の被災地支援のためにエルケム社がすすめるクリーンエネルギープロジェクトが日本企業(京セラ㈱、㈱シリコンプラス、㈱エスパワー)の協力を得て実現したものです。エルケム社が開発した省エネルギー技術を使い、ノルウェーのクリスチャンサンド市(Kristiansand)の工場で精製された環境にやさしいエルケム・ソーラー・シリコンを日本の企業が加工、さらに太陽光発電システムに仕上げ、現地の労働力で設置を行いました。

校舎正面玄関のホールには、石巻商業高校美術部の生徒がデザインしたパネルが掲示されています。このパネルには、現在の発電電力、その日の発電電力量とCO2削減量が表示されるほか、クリスチャンサンドと石巻の風景や、鯨、魚といった共通のモチーフが描かれています。



美術部の生徒がデザインしたパネル。写真: Elkem Japan

校舎屋上でのテープカット・セレモニーに引き続き、体育館で全校生徒を前に寄贈式が行われました。寄贈者であるエルケム社のトロン・セーテルスタ(Trond Saeterstad)上級副社長からは、寄贈にいたる経緯と再生可能エネルギーが果たす役割について、またクリスチャンサンドと石巻の友情の礎となるよう希望する、とスピーチがありました。リック・リン副大臣からは、当初予定されていた訪日が東日本大震災で延期になった事や、震災のお見舞いと生徒への激励の挨拶がありました。

また、副大臣から探検家のナンセンとアムンセンが北極、南極探検に使用した船「フラム号」の当時の写真パネルが岡部校長と八木生徒会長に贈られました。「フラム」はノルウェー語で「前へ」を意味します。フラム号は3年間北極の氷に閉じこめられて漂流した事もあり、不屈の探検家を使用したことになみ、艱難辛苦を乗り越えて前へ進んで欲しい、という思いが込められています。

## ■ エルケム社と日本との関係

エルケム社は電気化学事業を興そうという数人の若者が集まった技術ベンチャー企業として創業し、世界の非鉄金属精錬に大きく貢献してきました。しかし、北欧の弱小企業でもあったことからスタート間もない1917年に開発した電気炉システムはすぐには売れず、すぐに経営の危機を迎えます。しかし、日本企業がその技術価値を見出して1922年にライセンスを取得、エルケムはライセンス料を前払いで得て、研究開発と事業活動を続けることができました。

1940年4月、ナチスドイツがノルウェーに侵攻し、フィヨルドの深部にある重水やエルケムのアルミ精錬のシステムも標的となりました。そこでエルケム社は一人の社員に技術資料を託しスウェーデン、モスクワ、シベリア、日本経由でニューヨークへ脱出を試みました。この時また前述の日本企業がニューヨークへの渡航費、事務所の開設費、運営費の用立てをしてくれました。日本が太平洋戦争に参戦する直前のことでした。エルケム社はその結果、ノルウェーでは企業活動を最小限に抑えながらニューヨークでは活発な事業活動を続け、戦後本格的に事業への復帰を果たすことができたのです。脱出した社員はその後エルケム社の社長を長い間務めました。



写真: Norwegian Embassy

# 日本に希望を一ノルウェーで被災者支援の輪広がる

- 最終更新日: 08/04/2011 // 東北地方太平洋沖地震により甚大な被害を受けた日本のために、芸術家を中心にノルウェー人たちが立ち上がり、各地で救援募金や被災者支援コンサートを行なっています。
- 震災の直後にバイアスロンの世界選手権(ロシア)男子 30 キロリレーで優勝したノルウェーの 4 選手が、1 万ユーロの賞金全額を慈善団体を通じて東日本大震災の被災者に 寄付しました。



写真: krister Sørbø/Scanpix

- 日本にもファンの多いポップ歌手 Trine Rein(トリーネ・レイン)が音楽仲間に呼びかけ、3月21日に「Gift to Japan」と題するコンサートをオスロで開催しました。「日本には公演を通じて多くの思い出があります。何か日本にお返しをしたいと思い、コンサートを企画しました」とトリーネは語りました。
- ホーコン皇太子も参加したこのコンサートで、Trine Rein はこの日のために作曲した新曲 The Earth is Trembling(地球は震えている)を披露しました。D'Sound、Wig Wam、Aleksander With、Nils Petter Molvær などの人気アーティストが顔を揃え、被災者のために心のこもった演奏を繰り広げました。日本人ピアニスト安保美希も参加しました。
- コンサートにかけつけたエーリク・ラーンスタイン外務副大臣は、「日本とノルウェーは強い絆で結ばれています。ノルウェー政府は日本の被災地の様子をずっと見守っています。日本人の皆さんがこのような危機にも落ち着いて対応しているのに感動を覚えます。また、ノルウェーは日本政府の要請に応じて、いつでも支援を行なう用意があります」と述べました。
- この他にも、日本の被災者のためにさまざまな取り組みが進められています。国立オペラ・バレエ団では、日本人ダンサーが中心となって日本を応援する特別なプログラムを用意しました。アイナル・ロツティングと穴澤明子(ピアノ)をはじめ、日本と縁の深い音楽家がノルウェー在住の日本人音楽家と共にチャリティーコンサートを行なうなど、支援の輪が広がっています。

来日経験のあるサーメ歌手のヨハン・サラ・ジュニアは、日本のプロデューサーによる CD 録音に参加し、報酬の全額を被災地に送りました。

- 手作りのクッキーを販売して、義援金を募る子どもたちもいます。これらの収益金はノルウェー赤十字を経て日本の被災者に贈られています。
- ノルウェー赤十字では日本の被災者のためにさまざまなプロジェクトをとりまとめ、積極的に義援金を募っています。





Trine Rein



Johan Sara Jr.



# Pray for Japan

がんばれ、日本！

## KONSERT

til inntekt for Jordskjelvkatastrofen

Klaver: Akiko Anzawa og Prof. Einar Røttlügen

Sang: Bjørn Gude Sæter

Orgel: Mariko Takai

Søndag 27. mars kl. 18.00

JOHANNESKIRKEN

Gratis adgang!

Kirken er åpen fra kl.15.00

Musikkmeditasjon hver hele time med

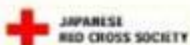
Japanske studenter fra Griegakademiet.

Lystenning, Japansk te, salg av blekk maleri m.m.

Vær med å gi en gave direkte til **JAPANSK RØDE KORS**  
via Den Japanske Ambassade. **Kontonr: 1503.20.91900**

[http://www.no.amb-japan.go.jp/Norwegian/Altselt/ordliste/tsunami\\_0011.html](http://www.no.amb-japan.go.jp/Norwegian/Altselt/ordliste/tsunami_0011.html)

Av: Japan-Norway Musicians' Society i samarbeid med Bergen domkirke menighet



日付:11月 2011

カテゴリー: 公演・パフォーマンス

## ノルウェーの舟歌を石巻の子どもたちに



Storm

Weather Shanty Choir

ノルウェーの男性6人組による舟歌合唱団、ストーム・ウェザー・シャンティ・クワイアが初来日し、東日本大地震からちょうど8ヶ月目の11月11日に石巻で特別コンサートを行ないました。

### ノルウェーの舟歌を石巻の子どもたちに

「ヴァイキング時代から海とともに暮らしてきたノルウェー人の奏でる舟歌を、ぜひ港町石巻の人々に届けたい」

東日本大震災の直後から本国で支援活動を行ってきたストーム・ウェザー・シャンティ・クワイア Storm Weather Shanty Choir は、念願の初来日ツアーを被災地からスタートさせたいと願ってきました。

仙台を拠点に活動するグループ「お父さんたちのネットワーク」の協力を得て石巻市立稲井中学校での特別コンサートが実現しました。

稲井中の校舎は被害を免れたものの、校庭に建設された仮設校舎では、津波の被害を受けた市立渡波(わたのは)中学校の生徒たちが毎日バスを連ねて通学し授業を受けています。コンサートには両中学校の生徒や保護者、一般市民ら500人がつめかけました。

クワイアは伝統的な舟歌をロックやポップス調にアレンジした十数曲をパワフルな演奏で披露しました。最初は静かに聴いていた生徒たちも次第に身体を動かしたり飛び跳ねたりで会場は大盛り上がり。クワイアが「ソーラン節」を歌うと、生徒たちから自然に合いの手が入りました。ユーモアとパワーあふれる演奏に、渡波中の生徒会長・石森優斗君(14歳)は、「こんなに盛り上がったのは震災以来。感動的な歌声に元気をもらったと話しました。

をもらった」と話しました。